



苦汁の健康利用の先駆者 50年の歴史を持つスイマグ

「あくまで健康の手助け役」 三保製薬研究所 代表取締役 花澤 久元氏

現在のにがりブームから溯ることから半世紀、水酸化マグネシウムの持つ効能に注目し、制酸薬、瀉下薬「スイマグ」として開発、製品化したのが、(株)三保製薬研究所（静岡市清水中河内1513・花澤久元代表取締役）である。設立当初から、製造元である同社から利用者へ製品を直接送るといった独特の販売方式にこだわってきた。

地道な方法だが、口伝的に全国に拡がりを示し、利用者を増やしてきた。手紙やハガキからインターネット、FAXと申し込みの方法は多様化した。その姿勢に変化はみられない。

スイマグは、製品名の由来の一つとなっている水酸化マグネシウムを原料としている。1mlの水分中99・9mgの水酸化マグネシウムが含有されている。スイマグの役割は、塩類下剤としての効果により、腸管内に水分を保持し、さらに組織からの水を引き寄せることで、腸の運動を誘発し自然でおだやかな排便をうながすのである。あくまで、自然の便通の手伝いであり、自らが生活の見直しや健康を保つことが大切であるとしている。

この原料の水酸化マグネシウムは、タテホ化学工業が一貫して供給しており、海水中の苦汁を元に作る。それだけに、スイマグは、「生まれは海、育ちは自然の医薬

品」と位置付けられている。また、「ヒトの体液と海水の成分がよくにていること」から成分のひとつであるマグネシウムが安全に、安心して体の中ではたらくことも、利用者の信頼を得ているところだろう。

そこで、スイマグのロングセラーの秘訣を、三保製薬研究所の代表取締役の花澤久元氏に訊くことにした。同社は、1993年10月に旧清水市内より移転、現在は静岡市と合併した旧清水市にあり、JR東海道本線の興津駅おきづから北に向かって20分、中河内川により沿う美しい場所に立っている。GMPに準拠する衛生管理の行き届いた工場と事務所、そして3階には「健康の森会館マグハウス」があり、研修会も行えるスペースも備えている。花澤氏は、利用者との情報交換を目的に「三保通信」を83年5月25日に創刊し、20年以上続けている。

正四面体の考え方を基本に

「スイマグの製品化の歴史をお訊かせ下さい。」

花澤・私の父、花澤政雄が開発者であり、会社の創業者でもありません。元々、みかんなどの農業技術者でした。みかん作りには土壌改良剤として苦土石灰を使うことを指導していました。苦土は酸化マグネシウムですから、みかんにも良いのであれば人間の身体にも良いはずだと考えていたらしいのです。健康面では、父は西勝造先生が考案された西式健康法に従っていた関係で関心を高く持っていました。全寮制農業高校に進学した際に、その校長から指導され、以来、ずっと続けることになりました。一日二食生活を基本とします。そこで様々な農業技術を学び、土壌改良技術を身につけました。その当時、苦土石灰や石灰硫黄合剤し



ロングセラーの「スイマグ」

か、みかん用肥料はありませんでした。自然に近いものですから薬害は殆どなかった。これも健康と結びつきました。

この清水はみかん栽培が昔から盛んで全国的にみても農協が大きい地域です。農協の前身である実行組合を作った一人が父でした。農薬部門の責任者でもありました。このことが、スイマグ製造につながっていきます。

― 農業技術から製薬へですか。

花澤・西式健康法では既に水酸化マグネシウムを利用しており、東京の六大製薬が製造していましたが、その関係が解消されてしまった。そこで西先生から、「農薬を知っているなら医薬品も出来るだろう」と父に白羽の矢が立ったのです。そして、1953年（昭和28年）1月に三保製薬研究所が設立されました。ちなみに79年（昭和54年）に法人化し、現在に至っ

ています。

西式健康法には正四面体という考え方があります。正三角形が四面ある立方体で、最小体積にして最大強度を持っています。テトラポットが良い例ですね。これを身体に見立てて、理想の姿とするものです。三食を二食とするのも、スイマグを飲み、通じをよくしてお腹を掃除してやることで血液循環を良くするのです。その他、運動療法など様々な方法があります。― 社名の由来は、三保の松原ですか。

花澤・いえ、正三角形の三を保つ、健康を保つという意味です。実は西先生は土木技師としても高名な



三保製薬研究所の本社

方です。東京の地下鉄浅草線の設定にも携わっています。数学にも造詣が深く、1イコール0が数学的にも成立するとして、これを健康法の目的とも説明しています。これは、健康である時は、身体はどこにも痛みを感じません。「無感」と呼び、我々の身体、人間は一人の存在ですが、健康とは無感、ゼロとする。これが1イコール0という考え方です。父からよく言われました。父は会社の経営にも同様な考え方を持っていて、入ってくるのと出ていくのが同じで会社に残るものはゼロであるべきだと考えていました。

私が76年（昭和51年）に入社、79年（昭和54年）に法人化した際、父に替って社長に付きました。その頃、スイマグの値段を一本330円から450円（現在600円）に値上げしたいと言った時、父は「あなたの考え方は資本家の考え方だ」と指摘され、困ったことがあります。理想はあっても現実には会社を運営する必要があります。しかしながら、今になって父の考え方は良く分かります。これが基本であり、特に三保通信で考え方をまとめるようになってとりわけ感じるようになりました。

一貫してタテホ化学から原料供給を

― タテホ化学とは初期からのつながりですか。

花澤・私を知る限り、原料は一貫してタテホ化学さんです。ですから、87年（昭和62年）に起きたタテホショックの時は、スイマグが作れなくなることはないのかと心配しました。経営の考え方も小さいなりに丈夫という正四面体の考え方に立ちかえりました。また、タテホ化学さんの存在は私共にとって大切であることを再認識したものです。

― スイマグの効能は。



GMP準拠した工場

花澤・スイマグはあくまで医薬品で、本来、健康へのお手伝いの役割です。健康を保つには食事を正したり、生活を見直すことが大切です。腹八分にするだけで病気はかなり減ると思いますが、実は一番難しいところですよ。その難しさを多少ともお手伝いするのがスイマグです。便秘になったら飲むというのではなく、むしろ、お腹のお掃除として使って頂きたい。腸のお掃除など普段は見過ごされがちですが、下水道と同じ位置付けで、掃除が一番必要な箇所です。お通じの助け舟がスイマグです。

―販売方式は。

花澤・基本は、利用者に私共が直接販売する方法です。これは設立当初から変わりません。もちろん、薬局や医院を通じて販売されていますが、件数的には個人の方への直売が圧倒的に多い。利用者は、北海道から沖縄まで全国に居ます。登録件数は数万件に達すると思えます。但し、注文は一年に一回から毎月まで幅広く、様々です。もっと値段を高くして薬局で積極的展開をするべきだと利用者の方から意見を頂くこともあります。現状の体制が最適と考えています。

また、メールアドレスはありますがホームページは持っていません。医薬品ですからインターネット

トでの販売は難しい問題があります。そこで利用者がホームページを作って頂いており、それを見て連絡をいただく方もいます。使用者の大半は、西式健康法のことを御存知ないのも最近の特長ですよ。

―先程の一日二食という考え方がどうですか。

花澤・基本は腹八分目です。現代人は全て食べ過ぎです。一日二食にすれば、食事が3分の2になる。朝食を食べないのでありますが、これも理由があります。朝は排泄の時間で、これにエネルギーを注ぐ時間ですという考えです。

―便秘は要は食べ過ぎがまねいているということですね。

花澤・それから腸粘膜はとてもデリケートです。食物が小腸で栄養吸収され、その残りカスが大腸にまわって行くわけですが、大腸で滞留時間が長くなれば、それだけ水分吸収もされてしまい、便は硬くなって、同時に、腸の粘膜を傷付けていきます。食べない時に粘膜の補修をしているのです。少しの量でも食べ続けていると修復できません。胃腸を休ませ、大腸へのストレス防止をしなければいけません。大腸のためにも腹八分が大切ですが、小腸・十二指腸では空腹期収縮といって、空腹時に自ら収縮運動をして掃除をしています。

**Suimagu has been a long time seller for 50 years
Aid in maintaining health
Hisamoto Hanazawa, president of Miho Seiyaku Research Institute**

Miho Seiyaku Research Institute, based in Shizuoka Prefecture, realized the properties which magnesium hydroxide had, and undertook development of it, as an anti-acid and also as a laxative. Half a century has passed since they commercialized it under the trade name Suimagu. Since the time of its foundation, this company, which is also the manufacturer, has maintained its own unique form of sales which involves sending the products directly to the users. The fact that Suimagu has been a long time seller for 50 years testifies to the reliability of this product. The plant and offices of the company conform to the Good Manufacturing Practices (GMP). The Mori Health Hall is located on the third floor of its headquarter building, with space allocated to the holding of seminars. We interviewed Mr. Hasamoto Hanazawa to learn the secret being the long selling product Suimagu.

Based on the tetrahedron concept

Could you tell us something about the history behind the commercialization of Suimagu?

Hanazawa

My father, Masao Hanazawa, developed Suimagu and was the founder of the company. Originally he was an agricultural engineer specializing in oranges. He was also the head of the Fertilizer Division of the National Agricultural Co-operation Association. He utilized magnesium hydroxide as a chemical for improving the soil used for the growing of oranges. It seems that my father thought that if magnesium hydroxide was good for oranges, it should also be good for humans. The Nishi Health Method was created by Dr. Katsuzo Nishi. This method involves having two meals a day and an intake of magnesium hydroxide to stimulate bowel movement. Nishi focused on the flow inside the bowels and the flow of blood inside the intestines to carry out the Nishi Health Method more effectively. An intake of a large volume of Suimagu (magnesium oxide) on an empty stomach achieves the large flow inside the body with the smallest force, and forces waste matter out. This in turn removes toxins from inside the intestines and the cells, and prevents the accumulation of old waste matter, thereby helping to prevent illness. My father learned about this Nishi Health Method when he was in high school and later carried it out. In conjunction with this he became very much interested in magnesium hydroxide.

After being asked by Dr. Nishi to produce magnesium hydroxide, in January of 1953 he established the Health Research Center which became a company in 1979. The Nishi Health Method these is the concept of the regular tetrahedron. An equilateral triangle is in a cube with 4 surfaces and has the greatest strength for the smallest surface. A tetrapod is a good example. This is an idea which is applied to our body. Reducing the number of meals a day by one and taking Suimagu promotes the circulation of the blood. The role of Suimagu therefore is to aide in the maintenance of health. Since the establishment of the company, they have been procuring the raw material magnesium from Tateho.

のです。腸全体にとって腹八分は何よりも大切なことです。よく利用者の方からスイマグを飲み続けて大丈夫ですか、という質問を受けますが、スイマグは海水の成分とよく似ており、安心、安全な医薬品ですが、むしろ、食べすぎが一番問題なのですよとお応えしています。

―製品としてはスイマグが基本ですね。

花澤・携帯用で粒状のマリンマグがあります。スイマグが90%の割合です。50年間作り続けてきたわけですが、よくやってこれたというのが実感です。息き長くお使い頂いている方が多いことが支えられています。